

## 平成25年度 学校評価

### 学校教育に関する重点取組

#### 1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 授業の改善に取り組み、学力向上を推進する	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回校内研究授業を実施し、授業力向上に必要なことを全教員で協議する。</li> <li>・授業改善アドバイザーやOBを積極的に活用し、若手教員の授業力向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究は、1学期に理科、2学期に数学で実施した。授業クラスを残し部活動も中止し、じっくりと研究協議できた。</li> <li>・新採用教員や5年目までの若手教員には、授業改善アドバイザーの派遣を依頼し、授業改善に向けて忌憚ないアドバイスをもらっている。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、研究テーマを「自ら考える場面を設定し、活用・応用できる能力を身につける」と設定したが、不十分な取組となった。来年度も引き続き同じテーマで取り組みたい。</li> </ul>
(2) 校種間の連携に取り組み、滑らかな成長を推進する	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明城小、金楽寺小と共通目標を立て、合同研修会や相互に授業参観をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「挨拶に満ちた学校、地域にしよう」を合言葉に、明城小・金楽寺小・成長中の3校が、いろいろな場面で訴えてきた。挨拶する生徒は増えてきている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善アドバイザーやOB先生の指導を受け、指導力の向上を図りたい。</li> </ul>
(3) 特別支援教育の充実に取り組み、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援コーディネーターを中心に、通常学級の特別な指導の必要な生徒の情報交換と指導計画を共有する。</li> <li>・特別支援学級生徒の情報を職員会で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの合同研修で意見交流できた。</li> <li>・特支学級生徒の情報は、定例職員会で共有し、全教員でみていく体制ができていく。</li> <li>・特支学級の生徒が長欠となった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつに満ちた学校・地域」を引き続き3校共通の目標とし、年度始めや道徳、行事などで全ての学年が実践していきたい。</li> </ul>
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、特別支援学級が3クラスになり、生徒数も増える。それぞれの生徒の個に応じたカリキュラムを作り、全教員で関わっていきたい。</li> </ul>

## 2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 道徳性の涵養に取り組み、良好な人間関係づくりに努める	3	・「命を守り育てる環境教育」をテーマとして、道徳や総合で目標を明確にした活動を行う。	・各学年とも、道徳担当から事前に資料とワークシートが配付され一斉道徳を行っている。指導法は担任により特徴はあるが、目標は統一できた。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコスクールの認定を受け、今後も「環境教育」や「命の教育」を推進していきたい。また、活動の主体を整理し、組織的取り組みとしていきたい。</li> <li>・「時を守り、場を清め、礼を正す」を日常生活で点検する取り組みを行いたい。</li> <li>・『成良中いじめ基本方針』を策定し、早期発見・早期対応で、いじめのない学校作りにも全教職員で取り組みたい。</li> <li>・来年度から、公立高校が新通学区域(第2学区)となる。正確な情報と個に合った進路選びを早め早めに、じっくりと時間をかけて取り組みたい。</li> </ul>
(2) 基本的な生活習慣の確立に取り組み、問題行動の未然防止を図る	3.5	・「時を守り、場を清め、礼を正す」を学校生活の基本として、生徒観察をていねいにして学年で情報交換し、問題行動の未然防止を図る。	・屋上庭園、地域緑化を生徒会の緑化委員会を中心とした活動にしているが、学年によりかなり差がでている。 ・生徒理解に基づく、ていねいで厳しい指導ができていない。		
(3) 相談体制の充実に取り組み、不適応行動への早期対応及び長期欠席の抑止・改善を図る	3	・生徒指導委員会で、不登校生徒の情報を出し、長欠生徒には家庭訪問に何度も行き、保護者との信頼関係を図る。	・いじめを許さない学級・学校の雰囲気をつくり、早め早めの対応をしている。生徒指導における『報・連・相』もだいたいできてきた。		
(4) 進路指導の充実に取り組み、社会的自立に必要な能力を育成する	3	・2学年には、新通学区域が拡大されることを周知し、学力向上につなげる。 ・中1から体系的なキャリア教育を行う。	・長欠生徒は数年前に比べ減少傾向ではあるが、2月末でまだ15名いる。 ・県教委、市教委の作成した資料を用いて、2学年で学区拡大について学習しているが、まだ、十分理解できていない。		

## 3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 食育を通じた生活改善に取り組み、望ましい生活習慣を育成する	3.5	・中学校弁当事業の導入に伴う昼食指導や健康教育の視点の食事内容の学習を実施する。	・7月から中学校弁当事業が始まった。家庭からの弁当持参率は9割と高く、残りのうち、約6%が中学校弁当を利用している。また、家庭科や保健の授業で食育に取り組み、野菜摂取量向上を図っている。ただ、保護者への啓蒙が必要である。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭からの弁当を持たず、コンビニで購入したり、おにぎりのみで済ませている生徒に対して、栄養ある中学校弁当の利用を働きかけていきたい。</li> <li>・家庭科、保健委員会、養教の授業などで、引き続き食育を推進していきたい。</li> <li>・クラブ活動を活性化し、さらに、全員顧問、複数顧問制として、全教員で関わっていきたい。</li> </ul>
(2) 体育・スポーツ活動の充実に取り組み、体力・運動能力の向上に努める	3	・「早寝 早起き 朝ごはん」を朝礼や学級で繰り返し指導し、健康な一日の過ごし方を示す。	・規則正しい生活習慣が、学習効果や体力向上につながると理屈ではわかっているが、夜型生活の生徒は多い。 ・クラブ加入率は8割を越えており、文化部に入る男子生徒が増えてきている。		

#### 4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)安全教育の充実に取り組み、登下校及び校内の安全確保に努める	3	・危険箇所についての早めの報告と修繕に努める。	・校務員さんの行き届いた配慮で、校内の修理や修繕は迅速に行われている。通学路の事故の報告はなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する専門家や外部の講演会は引き続き行っていきたい。</li> <li>・津波に対する知識や避難訓練を実施し、予告なし訓練も実施を検討したい。</li> </ul>
(2)防災教育の充実に取り組み、危機管理能力の向上に努める	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度末に改訂した防災マニュアルを、教職員で共通理解する。</li> <li>・安全な学習環境づくりと、年間2回の防災訓練を通じて、とっさの行動力を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月職員会で、「防災マニュアル」を全教員で読み、自分の役割を確認し、学校が地域の防災拠点になることを共通理解できた。</li> <li>・防災訓練、防災講演を実施し、体験に基づく意識づけと行動力につないでいきたい。</li> </ul>		

#### 5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)地域資源の活用に取り組み、開かれた学校園づくりに努める	3	・学校HPを充実させ、適時に更新し学校情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事には、たくさんの地域の方が参加され、学校応援団になってくださっている。</li> <li>・HPの更新回数が減少し、情報公開が不十分であった。</li> <li>・学校評価は全教職員で共有しているが、日々の実践に意識するには至っていない。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPの更新を適宜に行い、学校の様子を発信していきたい。</li> <li>・HP担当者が異動しても更新できるように、複数教員のスキルを高めたい。</li> <li>・最終の学校評価を職員会議で確認し、学校の課題を共有し取り組みたい。</li> <li>・教員の年齢構成が、今年度は35歳以下と45歳以上に二分化していた。若手教員が、主要な校務分掌担当者となり、失敗を恐れず、積極的な活動を促したい。</li> </ul>
(2)学校評価の活用に取り組み、学校運営の改善を図る	2.5	・昨年度学校評価を全教職員で読み合わせして、学校の課題を共通理解していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の数が少なく、校外の研修会に参加することが減っている。お互い様の気持ちを持って、積極的に研修会に参加させたい。</li> <li>・主要な校務分掌を任せることで、責任感が生まれてきているが、まだ、全校的な視野に立てていない。</li> </ul>		
(3)教職員の資質向上に取り組み、学校の組織力向上に努める	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な校務分掌を若手教員が担当し、学校全体を見る視点で活動を組み立てる。</li> <li>・校外の研修会に積極的に参加させ、先進的で多様な指導法を学ぶ。</li> </ul>			

## 教育目標

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	3.5	・「自学自習 共汗共生 敬愛慈恕 文化創造」の精神で全ての教育活動に臨む。 ・「命の教育」「環境教育」など本校の特色ある教育を推進していく。	・「環境教育」「命の教育」が年間カリキュラムに組み込まれ、生徒も意識的な取り組みができるようになってきた。 ・合唱が市内中高音楽祭で最優秀賞、邦楽が県総合文化祭で県知事賞など、文化的な活躍が光った年度であった。 ・募金活動や音楽部のコンサートなど、外での社会貢献活動が少しずつ広がってきている。 ・中心的な役割をしている教員の異動に伴う活動の継続と、負担が一部教員に偏っていることが課題である。	3.5	・募金活動や音楽部、ネイチャークラブの活動などを通じて、社会に役立っていることを実感できる活動をたくさん計画していきたい。  ・目標の一つ『自学自習』ができておらず、学力向上につながっていない。朝学習・宿題の徹底とともに、水曜チャレンジなどを通して、自学できる生徒を育てたい。
(2)教育目標の具現化と指導の充実	3	・生徒が主体となる環境教育活動を総合や学校行事に組み入れる。			

## 研究テーマ

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1)研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	2.5	・今年度の研究テーマを「自ら考える場面を設定し、活用・応用できる能力を身につける」と設定し、生徒が自ら考える力・コミュニケーション力をつける授業の向上に努める。	・研究推進委員会で昨年度までの研究テーマを見直し、今年度は新学指要領の求める力を基軸に、自ら考える場面に授業の中に入れようと試みた。まだ、その意識が十分浸透しておらず、斬新な取組となっていない。 ・若手教員が、外部で学んできたことを、本校でも実践できるよう後押ししたい。	2.5	・生徒がじっくり考える時間や、グループワークを授業に取り入れ、判断力やコミュニケーション力をつける授業作りをしていきたい。  ・研修会で学んだことを、積極的に試す雰囲気や教科会や学年会で作っていききたい。
(2)研究テーマの具現化と指導の充実	2.5				

--

評 価 内 容	評価 I	具体的な取組	成 果 ・ 課 題	評価 II	改 善 策